



北区立八幡小学校 ことばの教室

TEL・FAX (5963) 4521

令和8年10月13日 NO. 4

今年は、暑さに加え、突然の大雨など天候に悩まされる夏となりました。そして、ようやく朝晩の涼しさに、ほっとするようになりました。また、青空に浮かぶ雲が秋の翳雲や筋雲に変わり、秋を感じられるようになってきました。

学校生活では、2学期が始まりました。通級指導の中でもできることが増え、自分で解決する様子も見られるようになりました。子供たちの成長を感じながら、今後もよりよい学習方法を活用して生活の中で生かせるように支援してまいります。

秋には各校で様々な行事が予定されています。行事に向けた練習などことばの教室の指導が重なる場合は、担当者にご連絡ください。また、今年は例年より早く感染症の流行が聞かれていますので、健康には十分ご注意ください。

<今後の予定>



13日(火) 始業式

東京都公立学校難聴・言語障害教育研究協議会 専門研究会(午後)

17日(土) 八幡小土曜授業

21日(水) 八幡小就学時健康診断(午後の指導はお休み)

10月から11月中に今後の学習について確認する保護者面談を予定しています。



10日(火) 東京都公立学校難聴・言語障害教育研究協議会 城北ブロック研究会(午後)

13日(金)・14日(土) 八幡小音楽会

18日(水) お話グループ活動② 13:45~14:45

24日(火) 東京都公立学校難聴・言語障害教育研究協議会 通級指導研究会(午後)



1日(火) 東京都公立学校難聴・言語障害教育研究協議会 城北ブロック研究会(午後)

21日(月) 個別指導終了

※年明けの通級開始は1月8日(金)です。

<感染症等の対応についてのお願い>

涼しい季節の訪れとともに、様々な感染症等が流行する時期を迎えることになります。今年も感染症の予防や拡散を防ぐため、通級にあたって以下のように対応をお願いいたします。ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

★検温などの健康観察を行い、発熱や嘔吐など体調不良のときには、無理をせずに通級を見合わせてください。

★本人に「37.5度以上の熱がある」「のどが痛い」「咳が出る」「全身がだるい」などの症状が一つ以上出ている場合は、通級を控えてください。

★本人が元気でも、ご家族に上記のような症状がある場合や、在籍学級が学級閉鎖もしくは学年閉鎖、学校閉鎖の措置がとられている場合も、通級をお控えください。

*状況によっては、マスク着用をお願いをすることがございますので、ご協力の程、よろしくお願いいたします。





文字を書く力を育てるために



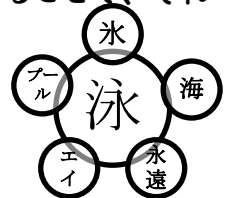
今年度、八幡小のこたばの教室では、「文字を書く力の育成」に焦点を当てて研究をしています。そのための基礎研修として、葛西こたばのテーブルの三好純太先生をお招きし、ご講義いただきました。その中の一部をご紹介します。

基本漢字の習得

基本漢字とは、「日」「月」や「生」など、主に小学校低学年で学ぶ漢字や、「丁」「皿」のようなパーツに分けられない単体の漢字のことです。なぜ、基本漢字を覚えなければならないかというと、偏や傍の多くは基本漢字であり、そのあとに続く漢字ネットワークづくり（※）の基盤となるからです。基本漢字の習得については、繰り返し書いたり、読んだりすることで身に付けることができますが、学習が進まない場合は、その原因を様々な面から考えていく必要があります。「文字の線を正しく認識できているか」、「線を描く力はあるか」、「語彙や記憶に関する力はあるか」などです。「線を描く力」については、「ひし形が描けること」が書字の基盤と言われています。また、「語彙」に関しては、「土」＝「つち」＝  のように意味を理解することが、そのあとに続く、より高度な漢字単語の習得の基盤になります。基礎的な練習（描線や線の認識、こたばの学習など）を行いながら並行して、漢字学習を進めていくことが重要になります。

※漢字ネットワークづくり

私たちは、文字の形や音、意味、使用頻度、自分の体験、印象などがつながりあったネットワークから漢字を覚えたり、思い出したりしているところがあります。例えば「泳」という文字は、「さんずいに永遠の永」のように形や読みで覚えたり、「氷」と書き間違えた経験から記憶に残ったりすることがあると思います。逆に言うと、このネットワークがあることで、それを活用して、文字を思い出す手がかりとしています。漢字のネットワークを作っていくことが、より豊かに幅広く漢字を覚えていくことにつながります。



読み書きの学習を通して育てたい力～こたばの教室担当者より～

私の担当している6年生の児童は読み書きの課題があり、1年生の頃からこたばの教室に通っています。私は、今年度からその子を担当することになり、小学校生活最後の1年ではありましたが、平仮名や片仮名、漢字がどの程度書けるかをまず確認し、在籍担任の先生とも連絡帳でやり取りさせていただきながら、その子にあった漢字の学習を考えてきました。やり取りの中で、学校の漢字テストの話になり、対策を聞くと、「よく間違える漢字を学校のドリルにチェックして、その文字を重点的に練習している。」とのことでした。また、「はねやはらいが私はどうしても苦手。」と自分の苦手なことを教えてくれました。私はそれを聞いて「すごいね!」とほめました。「自分は何が苦手で、どう学習していけばいいか。」を自分で話せることに感動したのです。習った漢字全てを書けるようになるのはとても難しいことです。それでも、「苦手な漢字を書けるようにしたい。」という前向きな気持ちが伝わってきました。

これからも、子供自身の力を伸ばしつつ、分からない時は周りの人に聞いたり、タイピングやICTの力も借りたりしながら、「こうすれば書ける!」を子供と一緒に見つけていきたいと思っています。